

# 高等 学校

## 避難所運営ゲーム（Doはぐ）を通じた防災と、高校生としての地域貢献の在り方を学ぶ

### 子どもたちの学び

〈実施後アンケートから〉・Doはぐは防災の意識を高めるためになったか？…ためになった（86%）  
・Doはぐから新たに学んだことはあったか？ …あった（88%）

#### 〈感想〉

- ・学校が避難所になった時の対処法がわかった。
- ・ゲームを通して、緊急時の対応の仕方がわかった。
- ・避難時に必要な物やどういう行動をすべきかわかった。
- ・避難してくる人が抱える様々な状況を考えることができた。

### 実践① 「Doはぐ」実施に向けて



体験用の段ボールベッドも準備



#### 内容

- 石狩振興局・石狩教育局との打合せ（目的・ゲーム時間・会場設営など）
- 担当学年の教員への説明（講師から）
- 実施準備
  - ①使用資料（体育館図・教室データ・ゲーム設定条件・イベント処理シート・各階間取図・敷地図）の準備
  - ②生徒グループ内のカード出し係、記録係の決定

はくちょうさん	
男 42歳	南田6班 半壊
世帯主・父・妻	
妻はインフルエンザの疑い。	
23	

すずらんさん	
男 58歳	西浦2班 半壊
世帯主・妻・長男	
夫婦とも全盲の鍼灸（しんきゅう）師と長男。夫は盲導犬を連れ、妻は白杖を使っている。	
46	

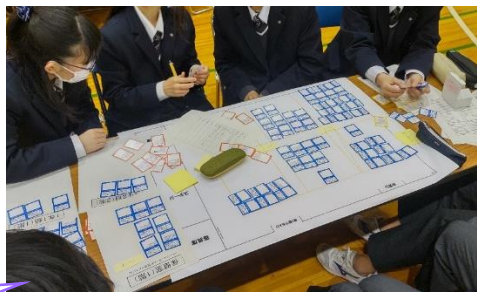
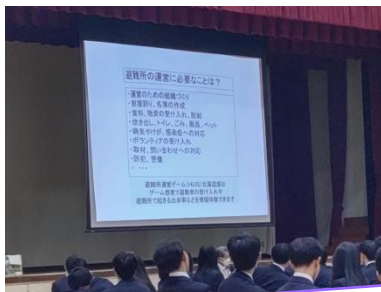
今回のゲームでは、時間の都合もあり250枚のうちの150枚を使用する形式としたため、使用するカードを選別する作業が必要となった。  
カードには避難所を訪れてくる様々な人々の境遇や条件が記載されている。

- ・講師が説明に使用するパワーポイント用のスクリーン等を準備
- ・第1学年生徒241名を8人のグループに分け、全部で30グループを体育館に配置

#### ●指導のポイント

- 災害時に救助される側になるだけでなく、高校生が救助する側になる可能性を意識し、地域貢献も含めた防災意識を育てる。
- 避難所運営の基礎と科学的根拠を含めた対応について学ぶ。

### 実践② 次々起こる様々なイベントを解決：「チームでの協議」と「運営における協働」の大切さ



#### 内容

○今回のゲームでは、災害の発生が冬季で設定したため、避難所となる体育館、その他の教室をどう使用するかが鍵となった。徒歩で避難所に来る家族や駐車スペース、ペット連れ、すでに感染症になっている人など、全体を見渡して、その時、その時で人々を各所に振り分けていく。

「乳児を連れた母親」、「タバコを吸いたいという訴え」、「ポータブルストーブの配給」など、様々なイベントを迅速に解決するためには？  
グループでの協議や教員のアドバイスで進んでいく。

知っておこう：車中での避難の危険性について（科学的根拠と人体のしくみ）  
自家用車で避難してきて、体育館ではなく車中で避難生活を送るという場合は、「一酸化炭素中毒」や「エコノミー症候群」に注意を払うよう講師から説明があった。  
避難所の運営に当たる際は、定期的に車に声かけをしに行ったり、マフラーの周囲の除雪などに配慮したりしなければならないと学んだ。

ゲーム前の重要なポイント「避難所の運営に必要なことは？」

- ・運営のための組織づくり
- ・部屋割り、名簿の作成
- ・食料、物資の受け入れ、配給
- ・病気やけが、感染症への対応
- ・炊き出し、トイレ、ごみ、風呂、ペット
- ・ボランティアの受け入れ
- ・取材、問い合わせへの対応
- ・防犯、警備 など

## ●学習指導案

学 校 名	北海道札幌平岡高等学校		
対象学年・学級	1 学年	対 象 生 徒 数	241 名
科目／単元名	地理総合 他		

### 1 本時のねらい

- 避難所を運営する際の諸課題をチームとして解決にあたり、より良い避難所運営とは何かを学ぶ。
- 災害禍で注意すべき身体の変化や科学的な知識を身に付ける。

### 2 評価の観点

<知識・技能>

気候状況や医学的な知識などを含め、避難者を適切な避難場所へ割り振ることができる。

<思考力・判断力・表現力>

適切な避難場所の割り振りの際、自分の考えを表現しながら、他のメンバーと協働することができる。

<主体的に学習に取り組む態度>

避難所運営の基礎知識や講師からの話を聞き、日常の防災意識を高めることができる。

### 3 防災教育の実践

#### (1) 防災教育を通して育成したい資質・能力

- ・災害発生時に自ら進んで地域住民と協力して救護活動等に当たる姿勢の育成
- ・地震などの災害発生メカニズムについての知識を持ち、日常的防災意識の育成

#### (2) (1) の内容を踏まえた、本時の授業概要

- ・救護される側だけでなく、高校生として避難所の運営にあたることで、災害時の地域との関わりを意識した授業を設定した。
- ・講師の説明から、日頃の防災への取組を振り返り、災害時の注意事項などに気付くことができる授業内容を設定した。

#### (3) 教科横断的な視点、各教科等との関連

- ・ヒートショックやエコノミークラス症候群といった、冬季の避難活動に関わる身体の変化について学ぶ（保健体育）
- ・一酸化炭素中毒等、避難時に注意すべきことの化学的根拠を学ぶ（理科）

#### (4) 家庭、地域、関係機関との連携

- ・午前中に全校生徒による避難訓練を実施し、消防署員の講話から冬型の災害とその防災についての講話を聞いた。

### 4 学習の展開

過 程	主な活動
○導入 ・冬季間の災害について ・避難所運営の基本理念	冬季に地震が起き、学校が避難所となった。避難所を運営する立場に立ち、どのような点に注意すべきかを知ろう。 ・講師の話聞き、冬季間の避難所生活の実態を知る。 ・施設内の利用可能な教室やスペースを考え、避難者の割り振りを行うことの必要性を考える。 ・「Doはぐ」の基本ルールを知り、様々な課題を解決する方策を考える。
○展開 ・「Doはぐ」の実施 ・グループでの協議と決定	避難者の抱える様々な事情に配慮し、適切な割り振り冬季間の避難所生活での注意点について知ろう。 ・150枚のカードを順番に読み上げ、避難者の状況から教室等を割り振る。 ・ゲーム途中で起こる様々なイベントをグループで協議し、避難所運営の方針を決定する。 ・イベントに対する理想的な対応について、講師からの助言を聞く。 ※エコノミークラス症候群についての解説を聞き、車中避難者への配慮の必要性を学ぶ。
○まとめ ・対応の発表 ・学習の振り返り	グループでの対応状況を全体で発表し、情報共有から様々な対応方法について考えよう。 ・いくつかのイベント処理の状況を発表し合い、対応の理由などを知ることにより、実際の判断に生かす。 ・講師による様々なケースの紹介を聞き、災害時に考慮すべき点について知る。
○まとめ（事後）	・Google フォームを用いた感想アンケートに回答することで、学習内容を振り返る。 <質問項目>①「Doはぐ」は防災意識を高めるのに、ためになったか？②「Doはぐ」から新たに学んだことはあったか？③日頃から災害に備えて準備していることはあるか？



# 高等 学校

## 南西沖地震から 30 年

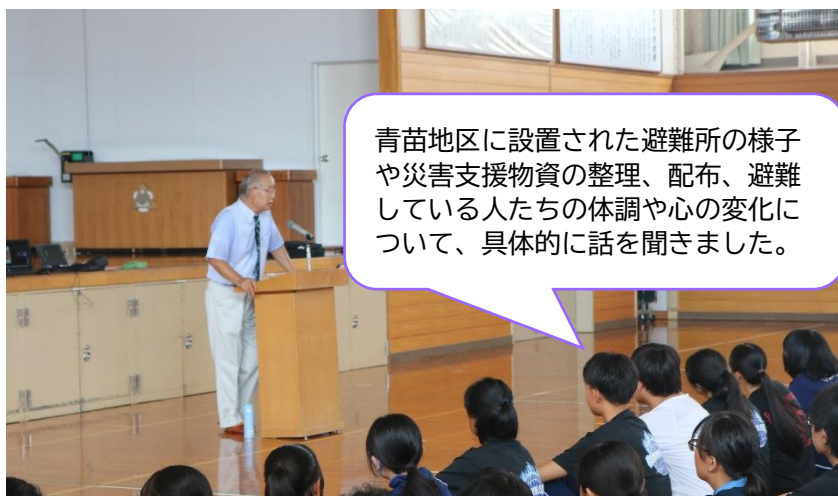
## 町と連携した 1 日防災学校による

## 震災の実際と「避難所運営」の実践

### 子どもたちの学び

- ・ 1993 年に南西沖地震を経験した語り部による講話や、段ボールベッドの作成や避難所運営体験などから、災害は他人事ではないことを再認識することができた。
- ・ これからの災害が発生した時には、私たち若者の力が生きていくと思うので、協力していきたい。

### 実践① 語り部 竹田さんの講話（「南西沖地震当時の避難所について」）



青苗地区に設置された避難所の様子や災害支援物資の整理、配布、避難している人たちの体調や心の変化について、具体的に話を聞きました。

#### 指導内容

- ・ 「南西沖地震当時の避難所について」をテーマとした講話。
- ・ 1993 年に役場職員として避難所を運営した経験について、語り部のお話を聞いた。

- ・ 当時、青苗支所と青苗中学校での避難所の開設やその運営、炊き出しや支援物資の管理、遺体への対応まで、実際に体験した語り部の話に耳を傾けた。

#### ●指導のポイント

- ・ 津波館の見学等を通じて、知識としての震災については理解しているが、体験者が語る避難所での避難者の様子や避難所を運営していた時の心の状態などについても理解できるようにする。

### 実践② 平成以降の大規模災害と避難所運営について学ぶ



様々な年齢層の方や持病をお持ちの方、ペットと共に避難した方、高齢の方と一緒に避難した方など、避難所に来られる方は、多岐にわたっています。その方々の思いを聞きながら、速やかに部屋に振り分けるのが受付の仕事です。

#### ●指導のポイント

- ・ 段ボールベッドの作成を通じて、避難所生活で有効に活用できる方法を理解できるようにする。
- ・ 避難所運営体験で、避難者の様々な状況に耳を傾けながら、速やかに思考・判断できるようにする。

#### 指導内容

- ・ 平成に入ってから3つの大きな災害事例や避難所、災害関連死について
- ・ 避難所設営と避難所運営（避難者の受付）体験について

#### 生徒の活動

- ・ コロナ禍の災害対応から、避難所運営に変化があり、現在は災害関連死をなくすための運営になっていることを理解する。
- ・ 避難者の受付や、避難所の受入状況によって、避難者を振り分ける演習を行った。

## ●学習指導案

学 校 名	北海道奥尻高等学校		
対象学年・学級	全学年	対 象 生 徒 数	55 名
科目／単元名	特別活動		

### 1 本時（1日防災学校）のねらい

- 家庭・地域との連携・協働の推進や関係機関（奥尻町・檜山振興局）との連携による安全対策の推進と学校安全の取組を推進する。
- 生徒が不測の事態に際し、指示・命令に従って迅速かつ的確に避難行動ができる。
- 生徒に安全に関する資質・能力を教科横断型な視点で確実に育むことができるよう、系統的・体系的な防災教育を推進する。

### 2 評価の観点

- 南西沖地震の発生時の様子と平成以降に国内で発生している災害の事例から、災害対応について理解できる。
- 避難所運営体験を通じて、災害時の避難所運営、災害関連死などについて理解を深めるとともに、現実的の起きうることを想定し、自ら主体的に対応することができる。
- 段ボールベッドの役割とその活用方法を理解できる。

### 3 防災教育の実践

- (1) 防災教育を通して育成したい資質・能力
  - ・国内で起きているさまざまな災害について理解を深め、自他共に協働しながら安全な生活を得るために必要な知識や技能を身に付けること。
- (2) (1)の内容を踏まえた、本時の授業概要
  - ・語り部による講話
  - ・専門家による避難所設営と避難所運営（避難者の受付）体験
- (3) 家庭、地域、関係機関との連携
  - ・奥尻町役場地域政策課と渡島・檜山振興局危機対策推進幹と連携した事業計画。
  - ・本校が避難所指定されていることによる、役場と連携した避難所シミュレーションの実施。

### 4 学習の展開

過 程	主な活動
<b>導入</b> ・講話 ・シェイクアウト訓練 ・避難訓練	<b>地震が起きたときの状況や自分たちがとるべき行動を理解しよう。</b> ・南西沖地震発生時の実体験を理解し、災害発生時に取るべき行動を実践する。 ・シェイクアウト訓練により、町の防災無線の情報を元に、迅速に安全な場所への避難を実践する。
<b>展開</b> ・専門家からの講話 ・段ボールベッドの設営と活用 ・避難所運営体験	<b>避難所の運営から、安心・安全な環境づくりや災害時の実践力を養おう。</b> ・平成に発生した大きな災害時の避難所と災害関連死について理解を深める。 ・段ボールベッドの作成を通じて様々な活用方法があることに理解を深める。 ・体験を通じて、コロナ禍の災害対応から避難所運営に変化が起きていることに理解を深める。
<b>まとめ</b> ・講評	<b>災害を自分事として捉え、主体的に行動することの大切さを振り返ろう。</b> ・危機対策推進幹からの講評と生徒たちからの感想を発表する。

## 「衛生管理」「防災小説」を 用いて生き残る道筋を考える

### 子どもたちの学び

- ・災害発生時に自身の取るべき行動や避難所生活のイメージをもち、災害時における衛生管理の方法を学ぶことができた。

### 実践① 衛生管理の必要性に気付く



「避難所生活では大量の排せつ物が出る。」「これを処理するのは大変。」「運び方、処理の仕方を考えないと感染症が広まるのではないか。」

水を排出物に見立て、実際に災害が発生した際に、感染症などから身を守るためにどのような処理が適切か考えることができる。

- ・凝固剤を用いて、尿に見立てた水を固める実験を行う。
- ・固めたものをどのように処理するのか考える。
- ・処理までに時間を要する場合の保管場所、方法を考える。

### ●指導のポイント

- ・処理する量を視覚的にとらえることを通して、避難所では多くの排せつ物が出ることを理解するとともに、処理の方法を考えられるようにする。

### 実践② 防災小説



「震災後、復興するために被災者が希望を持って生活することをイメージして書いた。」「実際に被災したことがないのでハザードマップをもとに想定をした。」

被災したことがない生徒が多いため、映像資料などを活用して災害に遭遇した時のイメージができるようにする。

- ・事前に書いた防災小説を発表し、全体で災害時のイメージを共有する。
- ・ゲストティーチャーの講評などにより、具体的なイメージや望ましい対応などを学ぶ。

### ●指導のポイント

- ・映像資料などで災害発生時、避難所生活がどのようなものかを知り、自分の身に起きた場合にどのようなことができるかイメージを膨らませる。
- ・ゲストティーチャーの講評などでより正確なイメージにする。



## ●学習指導案

学 校 名	北海道根室高等学校		
対象学年・学級	全年次	対 象 生 徒 数	465 名
科目／単元名	総合的な探究の時間／高校生防災会議		

### 1 本時のねらい

- 避難所における衛生管理の重要性に気付くことができる。
- 災害に遭遇することを自分ごととして捉え、想像力を働かせ、生き残る道筋を考えることができる。

### 2 評価の観点

- 避難所における望ましい衛生管理を考えることができる。
- 災害の遭遇した際のイメージをし、生きるための道筋を順序立てて考えることができる。

### 3 防災教育の実践

- (1) 防災教育を通して育成したい資質・能力
  - ・地域の自然環境、災害や防災についての知識を深め、災害発生時の対処の仕方を学ぶ。
  - ・災害時の危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、自らの安全を確保するための行動ができるようになる。
  - ・災害発生時及び事後に他の人々や集団、地域の安全に役立つことができる人物を育成する。
- (2) (1)の内容を踏まえた、本時の授業概要
  - ・災害に遭遇した際にどのようなことができるか考え、実践する。
- (3) 教科等横断的な視点、各教科等との関連
  - ・地理総合「大項目C(1) 自然環境と防災」の内容に準じて学習を行う。
- (4) 家庭、地域、関係機関との連携
  - ・根室市危機管理課から防災士を招き、防災小説の講評や衛生管理指導をしてもらう。

### 4 学習の展開

過 程	主な活動
<b>導入</b> ・防災クイズ ・課題の発見	・地震が起きた時の状況や、自分たちがとるべき行動を考える。 ・怪我をした際の止血方法などを実演する。 ・災害時のトイレ問題にはどのような課題があるのかを考える。
<b>展開</b> ・課題解決に向けた実践	・水を排出物に見立て、携帯トイレの使用方法、処理方法を考える。 ・防災小説を全体の場で共有することで、災害時のイメージを多角的にとらえる。
<b>まとめ</b> ・講評 ・学習の振り返り	・ゲストティーチャーの講評を受け、具体的に災害時のイメージを膨らませる。 ・日頃の備えや災害時における一人一人の行動が大切になることを振り返る。